

小学部第*学年 算数科学習指導案

日時	令和7年*月*日(*) 9:30~10:15		場所	小学部*年*組教室
指導者	木村 雅也(T1)、** *(T2)			
単元名	「表とグラフを使って分けてみよう」			
本単元の目標	・身の回りのものや身近な出来事のつながりに関心を持ち、それを簡単な絵や記号などを用いたグラフで表したり、読み取ったりすることができる。 (知識及び技能)〈小学部 2 段階〉 ・身の回りのものや身近な出来事のつながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現することができる。 (思考力、判断力、表現力等)〈小学部 2 段階〉 ・数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。 (学びに向かう力、人間性等)〈小学部 2 段階〉			
単 元 の 評 価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・身の回りのものや身近な出来事のつながりに関心を持ち、それを簡単な絵や記号などを用いたグラフで表したり、読み取ったりしている。	・身の回りのものや身近な出来事のつながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現している。	・数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。	
単元設定の理由	【児童の学習状況に関すること】 ・本グループは、小学部*年の男子*名、女子*名の計*名で構成されている。 ・段階は 3 段階に近い 2 段階である。 ・既習の学習に対しては、意欲を見せ、集中して取り組むことができるが、新しい単元や問題の際には、見通しをもてず、集中を保つことが難しいことがある。発表機会を充実することや興味・関心を引く教材を使用することで学習に取り組むことができる。 ・算数科の実態として、*名全員50程度を数えることができるが、具体物を操作して数えることが苦手な児童が数名おり、言葉掛けや手本を必要とすることがある。 ・本単元に関する学習状況は、*名全員が具体物を操作して個数を数えることができる。集中力が途切れた時に、一つ数えるのを忘れてしまうことがある。 【単元設定の根拠に関すること】 ・本単元では、特別支援学校小学部学習指導要領解説に示された2段階 D「データの活用」のA「身の回りのものや身近な出来事のつながりに関心を持ち、それを簡単な絵や記号などを用いた表やグラフで表したり、読み取ったりする方法についての技能を身に付けるようにする。」、イ「身の回りのものや身近な出来事のつながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現する力を養う。」に基づき、目標を設定した。 ・内容については、D ア (ア) ⑦「身近なものを目的、用途、機能に着目して分類すること。(イ) ⑦「身近なものの色や形、大きさ、目的及び用途等に関心に向け、共通点や相違点を考えながら、興味をもって分類すること」、ウ (ア) ④「簡単な表で使用する○×の記号の意味が分かること。」、(イ) ⑦「身の回りの出来事を捉え、○×を用いた簡単な表で表現すること。」を取り上げる。 ・この内容から本単元では、ものに対して、共通点や相違点に気付き、分類する基礎を養うために、操作を行い、視覚的に判断し、分類する体験的な活動を充実させていきたい。 【指導・手立てに関する教師のねらい】 ・指導にあたっては、実際に操作をして共通点や相違点に気付き、分類する力を養いたい。 ・ICT を効果的に活用することで、児童に興味・関心をもたせ、集中力の持続を図りたい。 ・単元の導入では、身近なものを分類する活動を取り入れることで、分類に対する理解を深めたい。 ・ロイロノートで操作を行うことで、直接比較して共通点や相違点に気付くことができるようにしたい。 ・単元の中盤では、分類したものを簡単な表にしまとめるなどの、○×を用いた表に関わる数学的活動を通して、○や×の記号の意味を理解したり、記入したりするなどの基礎を定着させたい。			

	・操作したものを数えて表に書き写す活動を行うことで、表の読み取りの理解をできるようにしていきたい。				
単元の 指導計 画 (20時間扱い) 本時は 第14時	次	時	内容	学習活動	評価規準・評価方法
	1 「表にま とめてみ よう」	1、2 「なんこ あるかを かぞえよ う」	個数が10以下の対象物 を分類し、数を数える。	・個数が10以下の対象物を 種類ごとに分類し、「Aは何 個、Bは何個」と二種類で分 類している。	身近なものを、目的に着目して 分類している (知識・技能) 〔発表・ワークシート〕
		3、4 「なんこ あるかを かぞえよ う」	個数が20以下の対象物 を分類し、表に数字で書き 写す。	・個数が20以下の対象物を 種類ごとに分類し、「Aは何 個、Bは何個」と二種類に分 類し、表に数字で書き写す。	身近なものを、目的に着目して 分類し、表に数字で書き写してい る。 (知識・技能) 〔発表・ワークシート〕
		5～7 「つかう ものだけ とりだそ う」	使用するものを選択し、 分類する。 分類したものを表に数字で 書き写す。	・対象物を目的ごとの共通点 や相違点に着目して分類 し、表に数字でまとめること を知る。	ものの目的に着目し、共通点や 相違点について考え、表に数字で 書き写している。 (思考・判断・表現) 〔観察・ワークシート〕
		8～10 「いろい ろなわけ かたをし てみよ う」	二種類の要素をもつ具 体物を用途に合わせて種 類ごとに分類し、表に数字 で書き写している。	・大きさと色など、2つの分類 を用途によって分類し、表に 数字でまとめることを知る。	ものの色や大きさに着目して分 類し、表に数字で書き写している。 (知識・技能) 〔観察・ワークシート〕
	2 「表に分 かりやす くまとめ てみよ う」	11 「ひょう をわかり やすくま とめてみ よう」	数で数えたものを、表に 書き写し、グラフに印をつ け、要素ごとの各個数を読 み取る。	・分類したものを、表に数字 でまとめる。まとめた表の多 い少ないをグラフに印をつ け、読み取る。	分類したものを、表に数字で書 き写し、個数分を分かりやすくグラ フで表わしている。 (知識・技能) 〔発表・ワークシート〕
		12～14 「つかう ものをわ かりやす くまとめ てみよ う」 (本時)	用途によって分類した具 体物を、表に当てはめ、分 かりやすくグラフに書き写 す。	・用途に着目して、分類し、表 にまとめ、グラフに分かりや すくまとめる。	ものの共通点や相違点につい て考え分類し、個数分をグラフで 表している。 (思考・判断・表現) 〔観察・ワークシート〕
		15、16 「いろい ろなわけ かたで、 わかりや すくまと めてみよ う」	二種類の要素(大小、リ んごばな等)から分類 し、表に書き写し、個数分を グラフに分かりやすくまと めることができる。	・二つの分類方法から表の作 成方法を知り、グラフに分か りやすくまとめる。	ものの目的、用途によって分類 する方法を日常生活と絡めながら 表を表現し、個数分をグラフに分 かりやすくまとめている。 (思考・判断・表現) 〔観察・ワークシート〕

	3 「〇×の 表を作っ てみよう」	17 「〇×の ひょうを よみとろ う」	用途によって〇×を使用 して、できない等の 分別を表から読み取る。	・〇×の表から具体物を操作 して、表から読み取る方法を 知る。	〇×を用いて、表から読み取ろう としている。 (知識・技能) 〔発表・ワークシート〕
		18～20 「〇×の ひょうを つくって みよう」	用途によって分類したも のを表に〇×で書き写す。	・これまでの分類から、用途 ごとに分けた表を作成する。	〇×の数に注目して比較したり、 数えたりしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 〔発表〕

〔本時の指導〕

1 本時の目標

ものの共通点や相違点について考え、分類し、個数分をグラフに表すことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

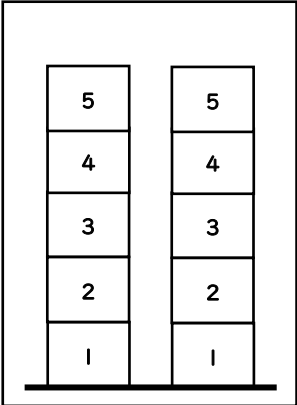
2 児童の実態及び個別目標

児童 学年	児童の実態	個別目標	自立活動の 目標
A *年	・前に出て発表することが難しい。 ・分からない課題を教師に伝えることが難しいが、教師が二択で聞くと答えることができる。 ・新しい単元や課題に対して、すぐに取り組むことが難しいが、細かに説明を加えることや何回か取り組むことで、集中して取り組むことができる。 ・数字から個数分を具体物で取り出すことが難しい。	ものの共通点や相違点について考え、分類し、表で個数分を表現し、教師と一緒にグラフに印を付けることができる。 (思考力、判断力、表現力等)	自分の気持ちを、言葉で相手に伝えることができる。
B *年	・集中していれば教師の話をよく聞くことができる。 ・課題について理解することができれば、教師の支援なしにその後の似た課題にも取り組むことができる。 ・見通しを持つことで次の作業に取り組むことができる。 ・具体物を数えることができるが、数え忘れをしてしまうことが多い。	ものを分類、表で表現し、個数分を教師と一緒にグラフに印を付けることができる。 (思考力、判断力、表現力等)	相手と適切な距離を取り、「〇〇してもいいですか」の言葉を使って、要求を相手に伝えることができる。

3 展開

※形態の表記は 全体:全、グループ:グ、個別:個

形態 時間 (分)	学習活動 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て(各Tの役割等を含む)※評価は□で囲む
全 1	1 始めのあいさつをする。	・児童が授業へ気持ちの切り替えができるよう、机上进行して、挨拶ができるよう言葉を掛ける。 ・児童の注意がそれている場合、個別に言葉を掛ける。
全 1	2 本時の目標を確認する。 つかうものをわけて、わかりやすくまとめてみよう。	・児童が目標を意識して学習に取り組めるよう、目標を一緒に読み上げて確認する。 ・読み上げる際には、Bが読む部分をT2が隣で言葉を掛けながら指示する。
全 3	3 本時の学習内容を確認する。 (1)さんすうおうこくでわけのおてつだいをしよう。 (2)ひとりてやってみよう。(ぷりんと) (3)ふりかえり	・学習の見通しがもてるよう、スライドで説明するとともに、ミニホワイトボードに板書しておき、いつでも確認できるようにする。 ・話を始める際には、集中して聞けるように、T1が注目するよう全体に言葉を掛ける。T2は注意が向くよう、AとBに言葉を掛ける。 ・本時の学習内容を説明し、児童が授業の見通しをもてるようにする。
全 5	4 前時の振り返りをする。 ・夏のものと冬のものを、季節ごとに分類し、表を作成したことをふりかえる。	・スライドと言葉で前時の学習を振り返り、本時への学習につなぐことができるようにする。 ・具体物を分類し、表に作成した方法を前時の内容から確認することで、新しく学習するものではなく、既習内容を応用する方法であることを理解し、自信をもって学習に取り組めるようにする。
全 5	5 さんすうおうこくでわけのおてつだいをしよう。 (1)パワーポイントで説明を聞き表を作成する。	・スライドとロイロノートを使用して、掃除で使うものと勉強に使うものに分類し、表を作成する。 ・個別に支援する際には、「ほうきは何に使うものかな?」と用途について考えるような言葉を掛ける。 ・児童が選んだキャラクターをスライドに使用することで、授業に対して興味・関心をもてるようにする。 ・ストーリー性を含めたスライドにすることで、児童が授業に集中しやすいようにする。
個 5	(2)分類をして、表の作成をする。 <分類スライド> 「使うものによってわけよう」 べんきょう そうじ	・T2がAとBに注意を促すことで、T1の説明を聞けるようにする。 ・タブレット端末は関係のない時間に操作してしまわないよう使用するとき全体に配り、操作が終わった時に回収をする。終わることが難しい児童にはT1だけでなくT2も言葉を掛ける。 ・ロイロノートを開始する際に切り替えが難しい時には、T1、T2がそれぞれ個別に指導を行い、操作に移れるよう促す。 ・分類が難しい児童には、教師が「これはいつ使うことが多い?」と児童が考えて答えを出せるような言葉を掛ける。 ・分類が終わった児童には、分類が間違っていないか見直しを行うよう言葉を掛ける。 ・分類した絵の数から表を作成するよう言葉を掛ける。 ・参考資料として前の活動で使用した分類の表を、前方のテレビに

全 5	(3) 分類と表の作成の答え合わせをする。	映し、分からなくなった児童には、前方のテレビを見ながら活動するよう促す。 ・数を数えることが難しい児童には、教師と一緒に数える支援を行う。 ・終わった児童にはもう一度見直しを行うよう言葉を掛ける。
個 5	(4) テレビの分類した表を見ながら個数分を目盛りに印を付けて棒グラフをプリントに記入する。 〈プリント〉 「グラフをかこう」 	・T1は、ロイロノートの提出箱を作成し、児童に提出するよう促す。 ・児童が作成した表に注目できるよう、テレビに映して答え合わせをする。 ・前方のテレビに注目できるように児童のロイロノートと前のテレビを教師のロイロノートと共有して説明を行う。 ・今どこを説明しているのかが分かるよう、ロイロノートに答えを書きながら答え合わせを行う。 ・児童が活動を始める前に、T1が例題を提示して、やり方を説明する。 ・参考となる分類した表は、前方のテレビに写し、確認できるようにする。 ・棒グラフの記入の仕方に迷っている児童には表の数字を見て、何個あるか確認し、教師と一緒に数えながら目盛りに印を付けるよう支援する。 ・支援する際には、一緒に数を数え、目盛りに印を付ける際には、「さっきは何個あるって言ってたかな?」というように児童が自ら出した答えを想起するような言葉を掛ける。
全 3	(5) 答え合わせをする。	・A には、答えをあらかじめ確認し、間違えてないことを知ることで、自信をもって発表できるようにする。 ・棒グラフの端をそろえて比べることを既習事項である「長さくらべ」の学習から思い出すような発問を行うことで前の学習とつながりがあることに気付かせる。 ・端は分かりやすく太い線で示し、印を付ける際は、下から印をつけるよう説明する。 ・説明の際に行った例題のように、一緒に目盛りを数え、印を付ける活動を行うことで、グラフが視覚的に分かるようにする。
個 7	6 ひとりでやってみよう。(ぷりんと)	・プリントを使用して、本時の復習を行う。 ・学習への切り替えができるよう、必要なもの(鉛筆、消しゴム)が出ている児童からプリントを配付する。 ・やり方に迷っている児童には個別に支援を行う。 ・T1、T2は課題が終わった児童には丸付けし、できたところを称賛する。 ・丸付けが終わった児童にはファイルに綴じるよう言葉を掛ける。

		A ものの共通点や相違点について考え、分類し、表で個数分を表現し、教師と一緒に目盛りに印を付けている。 (思考・判断・表現)【タブレット、観察】 B ものを分類、表で表現し、個数分を教師と一緒に目盛りに印を付けている。 (思考・判断・表現)【タブレット、観察】 ものの共通点や相違点について考え、分類し、個数分をグラフに表している。(思考・判断・表現)【タブレット、観察】
全 4	7 本時のふりかえりをする。 つかうものをわけて、わかりやすくまとめることができた	・できたことや頑張っていることを具体的に称賛する言葉を掛けることで、児童の自信につながるようにする。 ・次時の学習内容を、児童に伝えることで、学習の見通しや興味・関心をもてるようにする。
全 1	8 終わりのあいさつをする。	・正しい姿勢を意識してあいさつができるよう、注意を教師の方に向ける言葉を掛ける。

【板書計画】つかうものをわかりやすくまとめてみよう

もくひょう つかうものをわけて、わかりやすくまとめよう

<がくしゅうないよう>

- (1) さんすうおうこくで わけるおてつだいを しよう。
- (2) ひとりでやってみよう。(ぶりんと)
- (3) ふりかえり

つかうものをわけて、わかりやすくまとめることができた

【座席配置図】

